

プロジェクトQ・第10章

若いクアルテット、ベートーヴェンに挑戦する

PROJECT

ベートーヴェン
chapter
10

後期弦楽四重奏曲全曲演奏会②

2013年2月9日(土)18:00開演
会場:上野学園 石橋メモリアルホール

主催:プロジェクトQ実行委員会
共催:上野学園 石橋メモリアルホール
助成:公益財団法人 日本音楽財団(日本財団助成事業)／公益財団法人 野村財団
公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
制作:テレビマンユニオン

プロジェクトQ・第10章～若いクアルテット、ベートーヴェンに挑戦する ベートーヴェン後期弦楽四重奏曲全曲演奏会②

ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
Ludwig van Beethoven

弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 作品132

String Quartet No. 15 in a minor op.132

1. Assai sostenuto
2. Allegro ma non tanto
3. Molto Adagio
4. Alla Marcia, assai vivace
5. Allegro appassionato

ローゼ弦楽四重奏団 Quartet Rose

篠原悠那／石原悠企(ヴァイオリン) 中 恵菜(ヴィオラ) 三井 静(チェロ)

Yuna Shinohara / Yuki Ishihara, violin Meguna Naka, viola Shizuka Mitsui, cello

桐朋学園の学生により2010年に結成。2010、2011年桐朋学園富山室内楽講座にて東京クアルテット、原田幸一郎、毛利伯郎の指導を受ける。2010年第83回、2011年第86回、2012年第88回桐朋学園室内楽演奏会に出演。徳永二男、毛利伯郎に師事。



1825年に作曲されたこの曲は、ベートーヴェンの晩年に書かれた弦楽四重奏群の中では第12番に続いて2番目に作られた作品である。この作品は5つの楽章によって構成されており、その中心に位置する第3楽章を軸に、調性がシメトリーに配置されている。元々ベートーヴェンは型通りの4楽章構成を考えていたが、病気のために作曲が中断され、快復して再着手した際に、リディア旋法による第3楽章を挿入するよう計画を変更した。後期のベートーヴェン特有の緻密なポリフォニーが展開されており、深い精神世界に繋がるような感覚を体験させてくれる作品である。

《第1楽章》Assai sostenuto - Allegro イ短調、序奏つきソナタ形式 序奏は短い作品全体に現れる重要な動機が提示される。シューベルトの弦楽四重奏第14番「死と乙女」の第1楽章に似た雰囲気を持つ楽章。

《第2楽章》Allegro ma non tanto イ長調、三部形式 トリオつきのメヌエット風の楽章。トリオは、ミュゼット風の音楽。

《第3楽章》Molto Adagio - Andante ヘ調のリディア旋法、五部形式 "Heiliger Dankgesang eines Genesenen an die Gottheit, in der lydischen Tonart"「リディア旋法による、病より癒えたる者の神への聖なる感謝の歌」と題された、最も長い楽章。ゆっくりとしたリディア旋法による部分と、少し速い「新しい力を得た"Neue Kraft fühlend"」二長調の部分の交替で構成される。

《第4楽章》Alla Marcia, assai vivace イ長調、二部形式 短い間奏曲。行進曲風の前半部ののちに、レチタティーヴォ風の楽句があり、すぐに終楽章につながっている。

《第5楽章》Allegro appassionato - Presto イ短調、ロンド・ソナタ形式 三拍子の速い音楽。最後はイ長調に転じて終わる。

(ローゼ弦楽四重奏団)

大フーガ 変ロ長調 作品133

Grosse Fuge in B flat major for string quartet op.133

モーヴ・クアルテット Mauve Quartet

比奈本 茜／柏山七海(ヴァイオリン) 稲岡里美(ヴィオラ) 稲本愛歌(チェロ)

Akane Hinamoto / Nanami Kashiya, violin Satomi Inaoka, viola Aika Inamoto, cello

相愛大学に在学中の同学年のメンバーにより2011年1月に結成。ヴィオラスペース公開マスタークラスでアントワン・タメスティ、今井信子のレッスンを受講。咲くやこの花音楽祭のロビーコンサート、関西の音楽大学選抜者による関西音楽大学協会主催アンサンブルの夕べなどに出演。これまでに小栗まち絵、田辺良子、斎藤建寛、林裕、竹内晴夫に師事。



大フーガ変ロ長調作品133は1825年から1826年にかけて弦楽四重奏曲第13番の最終楽章として作曲された楽曲でした。しかし、当時の演奏家たちにとってはあまりにも要求が高くまた聴衆にも不人気であったため、ベートーヴェンは出版社にせがまれてフィナーレを新たに作曲し、この大フーガを独立させました。

この曲を初めて聴いたときは正直何がどうなっているのか理解できずスコアにとらめっこの状態で、一人一人ソロのようにしっかりと弾きながら全てのパートにアンテナを張り巡らせ演奏することが大きな壁となりました。

プロジェクトQでは、5回にわたる素晴らしい先生方の濃いレッスンの中で、ベートーヴェンの後期の音楽の壮大さ、深み、重み、音符から読みとれる解釈やその表現方法、弦楽四重奏でどう練習し、どう音楽を作るかなど、沢山の事を学びました。また他のグループのレッスンを聴講することで大変刺激を受けましたし、勉強になりました。往復の新幹線では意見を交換しながら復習するなど全てが良い経験になりました。

関西に帰ってからは先生方のアドバイスを元に意見を出し合い4人で音楽を作るということを大切に練習に励み、また最終楽章として作曲された大フーガの前の楽章である弦楽四重奏曲第13番第5楽章カヴァティーナを勉強するなど試行錯誤を重ねました。

大フーガはごつい男の人たちが汗をかきながら4人がまるで闘っているかのように必死になって演奏しているというイメージがあります。今日は私たちも内側から溢れ出る情熱をこの壮大なベートーヴェンの作品にぶつけて一生懸命に演奏したいと思います。

(モーヴ・クアルテット)

*** 休憩 ***

弦楽四重奏曲 第16番 へ長調 作品135

String Quartet No. 16 in F major op.135

1. Allretto
2. Vivace
3. Lento assai- Cantante e tranquillo
4. Grave ma non troppo tratto-allegro

クアルテット・レオニス Quartet Leonis

佐原敦子／小杉 結(ヴァイオリン) 阿部 哲(ヴィオラ) 豊田庄吾(チェロ)

Atsuko Sahara /Yui Kosugi, violin Satoru Abe, viola Shogo Toyoda,cello

2012年10月、プロジェクトQ・第10章の受講をきっかけに、東京藝術大学を卒業した4人により結成。メンバー全員が藝大フィルハーモニアに所属している。それぞれがソロやオーケストラ等での演奏活動を行う傍ら、室内楽を学ぶために集い研鑽を積んでいる。クアルテット名の「レオニス」は獅子座の一等星レグルスに由来しており、孤高の輝きを放てるようにとの願いを込めて命名。



ベートーヴェンの完結した作品としては最後のものとなったこの曲は、1826年10月に完成された。この頃、既に健康状態が悪化していたベートーヴェンは、溺愛していた甥のカールの自殺未遂事件によって、さらに肉体も精神も蝕まれてしまう。そこへ弟ヨハンから彼の農場があるグナイクセンドルフに来るよう招待を受け、退院したばかりのカールと赴き、そこでこの作品135は書き上げられた。2人は12月にウィーンに戻るも、寒波の影響もあり、ベートーヴェンは翌年3月にはこの世を去ってしまう。

そんな辛い状況の中で作曲されたにも関わらず、この作品には不思議に明るい開放感を感じる。後期の一連

の弦楽四重奏曲の中では最も規模が小さく、楽章は4楽章構成に戻っており、しかもそこには後期の作品に見られるような難解さはなく、シンプルで明快な構造である。そのシンプルさこそが、この作品の難しさであると私達は思う。第4楽章には、「ようやくついた決心」という標題がつけられており、さらに曲頭に現れるヴィオラとチェロによって奏される動機には「そうでなければならないのか?」、序奏の後にヴァイオリンで奏される動機には「そうでなければならない!」という謎めいた言葉が書き込まれている。この言葉の解釈は諸説あり、真相は謎であるが、死を覚悟していたともいわれる絶望の果ての心情と、その苦悩から解放された悟りの境地がみてとれるのではないだろうか。ピヒラー先生は「この作品を理解するのに僕は20年かかった。」と仰った。その言葉の重みを追求し、自分たちなりの表現をしたいと思う。

(クアルテット・レオニス)

プロジェクトQ・第10章～若いクアルテット、ベートーヴェンに挑戦する

プロジェクトQは、若いクアルテットの発掘と育成を目的とした日本におけるクアルテット振興プロジェクトです。これまでに、2001年度ベートーヴェン全曲(17曲/11組参加)、2002-2003年度バルトーク全曲(6曲/6組参加)、2005年度シューマン&ブラームス全曲(6曲/6組参加)、2006年度モーツァルト「ハイドン四重奏曲」全曲(6曲/6組参加)、2007年度ベートーヴェン初期弦楽四重奏曲全曲(6曲/6組参加)、2008年度ハイドン「エルデーディ四重奏曲」全曲(6曲/6組参加)、2009年度メンデルスゾーン全曲(7曲/7組参加)、2010年度ベートーヴェン中期弦楽四重奏曲全曲(5曲/5組参加)、2011年度ハイドン「プロシア四重奏曲」全曲(6曲/6組参加)に取り組んできました。今年度はベートーヴェンの弦楽四重奏曲から最高傑作と呼ばれる「後期弦楽四重奏曲」6曲をテーマに開催しています。将来性溢れる6組の若いクアルテットたちは、昨年10月より公開マスタークラスを受講、1月のトライアル・コンサートで試演、2月9日にベートーヴェン後期弦楽四重奏曲全曲演奏会でその成果を発表致します。次世代を担う若いクアルテットたちの挑戦にどうぞご期待ください。

★公開マスタークラス(2012年開催) 会場:上野学園 エオリアンホール/石橋メモリアルホール

- ①10月25日(木) 13:00-18:00 講師:原田幸一郎、原田禎夫
- ②10月28日(日) 13:00-18:00 講師:上海クアルテット
- ③11月06日(火) 13:30-18:30 講師:ギュンター・ピヒラー
- ④11月10日(土) 13:00-18:00 講師:今井信子、菅沼準二
- ⑤11月12日(月) 17:00-21:00 講師:ウィーン弦楽四重奏団

★トライアル・コンサート 会場:上野学園 石橋メモリアルホール

- ①1月12日(土)=ローゼ弦楽四重奏団
- ②1月13日(日)=ロリエ弦楽四重奏団、モーヴ・クアルテット
- ③1月14日(月)=クアルテット ATOM、クアルテット・レオニス、ジュネス弦楽四重奏団 各日11:00開演

★ベートーヴェン後期弦楽四重奏曲全曲演奏会 会場:上野学園 石橋メモリアルホール

2月9日

- ①13:00開演=第12番:クアルテット ATOM、第13番:ロリエ弦楽四重奏団、第14番:ジュネス弦楽四重奏団
- ②18:00開演=第15番:ローゼ弦楽四重奏団、大フーガ:モーヴ・クアルテット、第16番:クアルテット・レオニス

アドヴァイザー:原田幸一郎

プロジェクトQ実行委員会

[原田幸一郎(実行委員長) 安生 慶 今井信子 大木恵子 川崎雅夫 菅沼準二 原田禎夫]

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山South棟 テレビマンユニオン音楽事業部内

Phone:03-6418-8617 Fax:03-6418-8740